

# 丹後機業の動き

## 市況は低迷したままで、産地を取り巻く状況に出口が見えず！

- 昭和48年(1973年)の「920万反」をピークに、以後減産が止まらない丹後の白生地生産数量は、今年50万反前後と見込まれ、往時の1/20 近くにまで落ち込む見通しとなった。近年では、大手小売販売における過量販売・過剰与信が社会問題化して消費者の和装不信を招き、和装市場(業界)の大幅縮小を余儀なくさせられた。更に、昨年来の景況悪化が追い打ちとなり、集客の減少や上代下落に拍車がかかることとなった。
- 現状の和装実需に対する在庫を含めた供給量は過剰であり、何時どれ程の量で需給バランスがとれるかは不明で、減少を続ける生産数量の底はまだ見えてこない。しかしながら、成人式の振袖をはじめとして、七五三・冠婚葬祭等における和装需要は今後も確実に存在し、仕事で和装を制服とする方や愛好家も多い。また、レンタル対応や若年層への和装の魅力発信、リピーターの増など、需要掘り起こしの如何によっては、需給バランスの数量を引き上げることも可能である。
- 今の丹後産地では、量を捌いても利益は出ず、リスクを負ってまで新企画に取り組める環境にない。だが、立ち止まり待っていてもこの低迷からは到底脱出はできない。この低迷期を生き残り復興時に素早く事業展開を図っていくためにも、消費者や業界を納得させる「価値あるものづくり」を目指し、意識改革や体制の再構築など、腰の座った取組をスタートさせていく必要がある。

(調査時期：平成21年 10月中旬～ 10月下旬)

(調査機関：(財)京都産業21 北部支援センター)

### 【ちりめん(白生地)】

- 平成21年(1月～10月)の生産数量は41.2万反で、前年比74.4%(無地62.9%・紋77.8%)となった。今年は今年初より前年同月比で2～3割減産がずっと続いており、特に無地では10ヶ月連続で月産1万反を割っている。実需期に入った9月以降の荷動きも非常に低調で、産地仕入には慎重かつ模様眺めといった感がある。このまま推移するとなれば、平成21年の年間生産数量は50万反前後にまで落ち込むこととなる。
- 財務省の貿易統計によると、平成21年(1月～9月)の小幅白生地輸入数量(無地及び紋)は29.5万反で前年比69.8%と約3割の落ち込みを見せている。販売不振と在庫の多さから飽和状態にあり値崩れも見受けられる和装市場にあって、輸入生地は中国産の値上がり基調や為替の円高等から買い控え状態にある。また、先行き見通しも立て難いことから、この低迷はしばらく続くものと思われる。
- 和装業界では、販売の不振や委託方式の蔓延等から過剰在庫が未だ解消されず、新規展開への取組を困難にしている。こうした状況下、産地機業では受注生産に大きくシフトし、これを順守する操業に努めていることから、大幅な減産が続いている。現行の受注状況は、小ロットが大半で、売れた商品の補充といったケースも多いようである。生地価については、先行き需要が期待できず荷余り感も強いなど、非常に厳しい状況にある。更に、ここに来て、生糸価の値上がりが鮮明になってきたが、その転嫁は難しく、原料高・製品安の傾向が一層強まっている。なお、今後の事業展開について機業経営者の方に伺ったところ、「量は減っても利益は確保したいから、利幅の大きい企画物の割合を高めていく」「ものづくりに励み、差別化を図る」「多品種な品揃えで、小ロットであっても広く全国から注文を受けたい」「職場研修を通して従業員の意識改革を図り、仕事手順の見直し等に取り組み、難物の発生率の抑制や業務の効率化を進めたい」といった声を聞くことができた。

### 【帯地】

- 平成21年(1月～7月)の西陣帯地生産数量は、46.4

万本で前年比90.6%となっている。

- 実需期にも関わらず市中在庫の多さから、市況は極めて悪い。加えて、販売不振で高額レーンが苦戦する中、以前では考えられない超安値の商品が出回るなど、生産コストに関わらず全般的に帯の上代は下落している。
- 産地生産は全体的に減産が続いているが、振袖用の値頃品・ハデ物で比較的健闘している機業も一部にある。
- 一般的な出機(日4万越/台)の月収入は一台4万円程度と思われる。工賃安は深刻で、値頃ゾーンでは一越10銭以下といったケースや、1本単位での工賃設定もあるようだ。後継者問題も含め、機業の存続そのものが懸念される。
- こうした現状を打開する一手として、各種天然素材の試織に挑戦し、インテリアなど多用途に活用できる生地開発に取り組む機業もある。

### 【広幅織物】

- 服地では、正絹は相変わらずスポット的で小ロットの注文しか入っていない。ポリちりは引き続き先細り状態で、前年比2～3割の減産となっている。現行の消費動向等から見て、ポリちり製品の中に売れ筋商品は見出せない。
- ネクタイは、中国産が現市場の6～7割を占め、量・価格の両面で国内業界に大きな影響を及ぼしている。産地では9月より来春物の製織が始まっており、何とか前年並の受注量を確保できたようである。今後、中国産とは明確に差別化された商品開発が急がれるところである。
- カーシートは、今年5～9月初めまでは極端に悪く受注はほぼ皆無であったが、長期無発注の反動やエコカー減税効果等から9月中旬以降注文が入り始めた。しかし、発注量は従来の7割程度であり、生地単価も同6割程に抑えられている。

### 【小物他】

- 風呂敷では、正絹は実需分のみ底堅く推移しているが、催事関係が例年に比べ少ないようである。レーヨン300番は前年比3割減の状態である。
- 帯揚・衿等の和装小物は、和装販売の低迷そのままに減産が続いている。